



人権教育だより



那須町立高久小学校
令和8年2月19日発行
第9号

那須町では、2月に「命の週間」を設定し、各校で命について考える授業や取組を行っています。高久小学校では、9日から13日が命の週間でした。今回の人権教育だよりでは、命について考えた全校道徳での活動の様子や児童の感想を御紹介します。

《「命について考えよう」(全校道徳)》

まずは、事前におうちの方に聞いてきた自分の名前の由来を小グループで発表しました。どうして「〇〇」という名前になったのか、「□」という漢字を使った理由、兄弟とのつながりなど、一人一人の名前に込められた家族の思いを聞くことができました。



次に、「いのちのとけい」(作：にしやま まき)という絵本の動画を鑑賞しました。お母さんのお腹の中で少しずつ大きくなっていく命。大きくなっていく命を一番近くで感じ、誕生を心待ちにしているお母さん。赤ちゃん誕生後のやっと会えた喜び、初めて感じた温かさ。お母さん側の視点で描かれた絵本を静かに真剣に鑑賞していました。



鑑賞後、「お母さんの気持ち」を考え、班のメンバーから出された意見を6年生がまとめました。子供たちからは「産まれてくるのが楽しみだな」「早く会いたいな」「男の子かな、女の子かな」などの誕生を楽しみにしている気持ちだけでなく、「元気に産まれてきてくれるかな」「病気になっていないかな」など、不安な気持ちもあったのではないかなという意見も出ました。

さらに、赤ちゃんの誕生を待つ家族の気持ちも考えました。弟や妹が産まれたときのことを覚えている子供たちもあり、「産まれてきたらいろいろ教えてあげたいな」「一緒に遊びたいな」「お母さん大丈夫かな」といった意見が出ました。



授業の最後には、「自分の命をどう思うか」を考えました。子供たちからは次のような感想が出ました。

自分の命は、お母さんが大変な気持ちで産んでくれたものだから、感謝して過ごしていきたいです。

そんなに時間をかけて自分が産まれてきたなんて知らなかったから、これからは自分を大切にしたいです。

名前に込めてくれた思いに応えられるようにしたいです。

自分の名前の由来を忘れないでいようと思います。

産んでくれた命を大切に、次の命につないでいきたいです。

お母さんが頑張って産んでくれたから命を大切にしたいです。



自分という存在が、たくさんの人に愛されて産まれてきた命であることに改めて気付くことができました。自分のことを大切にしながら、これからも生活してほしいと思います。

《力を合わせた体育集会！～芭蕉っ子班対抗大縄大会～》

2月12日（木）の体育集会では、芭蕉っ子班対抗の大縄大会を行いました。1月の大会に続いて二回目の実施です。今回は一番回数が多かった班だけでなく、一回目から一番記録を伸ばした班、一番盛り上げていた班も表彰することになりました。子供たちはやる気いっぱい！スタート前には、円陣を組む班もありました。



どの班も大きな声を出しながら頑張りました。ただ跳ぶだけではなく、低学年が入りやすいように回すスピードをゆっくりにしたり、背中を押して入るタイミングを教えたりと、様々な工夫をしながら取り組むことができました。優勝は、・・・1班!!一番記録を伸ばした班も1班でした。一番盛り上げていた班は5班でした。この班でいられるのもあとわずか・・・。最後まで仲良く、楽しい思い出をたくさん作りましょう!

MVPカードをもらってにこにこ笑顔です☆どのMVPになったのか、ぜひお子様に聞いてみてください!

《わたしは〇〇MVP!》

2月の人権目標は「友達の良いところを認め合おう」です。それに合わせて人権チャレンジは「わたしは〇〇MVP!」を実施しています。「かんじMVP」「あいさつMVP」「てつぼうMVP」「きゅうしょくMVP」など、一人一人のステキなところをカードにして、名札の下に表示しています。

このカードをきっかけに、自分の良さに気付いたり、友達の良さを認めたりと、自分も相手も大切にしたいと思っています。

